

バイオハザードハウス



バイオハザードハウス

ケイティフレミング

わたし

トン火曜日の午前中だった。ララの時計 5:18 お読みください。今日の彼女は偉大な 15 階建ての家、アジアを訪問する旅でした。伝説に悩まされたと主張した。ララはほとんど待つことができます。

後ララ彼女のカーキ色のズボンと緑のシャツを着ただ、彼女は台所に階下に行った。そこに彼女は、冷凍庫で彼女は昨日の楽しみのためにウィンストンロックを開けさせた。彼は、お茶のポット彼女の好みのお食事、トーストの上の豆をした。その後、彼女は戻って冷凍庫にウィンストンロックされて彼女はどのように彼はいつも彼女のまわりに続いて嫌い！

先頭へ戻る自分の寝室で、彼女は彼女の秘密のクローゼットを開き、散弾銃のシェルの 5 つのボックスをつかみ、2 つの大型中間のパック、そして彼女のバックパック。彼女は、彼女の浴槽で、秘密のコンパートメント内の 2 つの自動拳銃を除いて彼女の部屋内の任意の銃を保持しません。彼女は地下室に彼女の銃を収集に行きました。

ララは、彼女は階段を降りて歩いてフレアが点灯。彼女が巨大な水槽には多くの熱帯の魚が来て、彼女は天井の開口部に下に古いボックスプル。彼女は、登りを実行してジャンプした場合、白鳥のダイビングタンクに。彼女は非常に底には、泳ぎ、レバーをプル。すべての底に、突然、一部の距離とララ泳いで小さな開口部に引きずら。ララ強盗の全体のギャングの後、彼女の家に来ていたこの秘密の通路を作った。7メートル、階段については水泳の後、クールな青い水から浮上した。ララ、登り小さなプラットフォーム上で自分自身ブレス、小さなスイッチを押した。

開設彼女行きました！いったん 63 キロの最高速度/時間だ！一度ララ彼女の宛先に到達した彼女は、小さな部屋には、プラットフォームから飛び降りた。

そこには小さな二人掛け、クローゼット、暖炉、これにはまっていたテレビは、すべてのカメラは彼女の家で、大きな胸が床に覆われた滑らかな赤いカー

ペットの上にする。緑のタオル。ララ暖炉の上で歩いて暖炉のそばで、覆われ、オレンジ色の火を燃えるように、彼女の冷たい指を調達した。彼女は、タオルを取り出して、自分自身をふいた。クローゼットではソラウエットスーツは、カーキ色のズボンだった。彼女はズボンを置く。オープニングの胸、火薬の甘い香りが充満した部屋。中には胸の三十銚、レーザー銃、100手榴弾、グレネードランチャーと4つの拳銃、三銃、2つの捕鯨砲、バンジーコードをそれに添付してフック取り組んでは、M16を横たわっていた。自分自身に笑顔、ララは、バンジーコードをそれに添付して取り組んでフック2拳銃、2つの手榴弾、グレネードランチャー、ショットガンを手に入れた。どのような負荷が高い！出発する前に、ララは、テレビに、彼女に目を通すと思ったか、カメラを選択した上で行って、腰を下ろした。

貧しいウィンストンは、冷凍庫では床の上で震えて彼の唇にお茶を育てて座っていた。ララ冷笑したという。ので、彼の凍結はない彼女は5°Cには、冷凍庫になっていた。その代わりに、再度、プラットフォームや水泳下る、ララの代替パスした。の下に掛け秘密のボタンをクリックした。ララは、プッシュして、1つの壁の開いて下落した。ララすぐ内側前にシャットダウンしていた。壁の後ろに待ってララのノートンストリートファイターオートバイ、交通機関のララの好きな形だった。彼女は、跳ね、長い暗い廊下を進んで進められた。ララ先のかすかな光を見るようになった、彼女は実際にはスロトル熱狂！として、彼女が加速して彼女のブルネットの髪を乱暴に彼女の背後に飛んだ。ライト明るくなってなっていた。ララ彼女の邸宅の外のゲートが見えた。と大きなララは空気を介して飛んで行ったヒューという音、トンネルの終わりには、ロードされた跳躍した。できるだけ早く、彼女はそれ以上の運転には、ボードの推力ララ空気中に！彼女は、彼女の指の関節を持つことを白人飛んでゲート以上。彼女が上陸し、近くの鳥を脱いだ。彼女は彼女の方法にあった！

3 時間後に...

ジェット機の老杉のミルでララを待った。彼女は、残りの道は飛んできて、家からわずか数分で着陸した。後面左に、ララの古い家に向けて彼女のノートンストリートファイターオートバイに乗った。彼女は彼女の家の上部を参照して可能性が高い彼女の頭部を傾斜していた！彼女の拳銃を撮影、彼女の近くに家に向かって歩いた。壊れたピケットフェンス、家の周囲。ボード壊れた窓以上、剥離塗料どこでも表示された釘付けだった。緩やかなシャッターが風に流さ羽ばたき。

ララは、慎重に背の高い雑草やとげを避けてゆがんだ階段を歩いた。代わりに、ドアのロックは、ララに戻る、一步を踏み出したと、直接それを自分自身を投げた。これは非常に簡単にオープンしました。ララ家の中にいくつかの措置を講じた。クモの巣、スパイダーやほこり厚く床と家具をカバーし、警告なしに、古いドアを閉めて非難した。ララはおそらく開いていないことは知っていたが、彼女はとにかく試みた。いいえ。その頑丈なドアシャットダウンされた！周辺チューリング、ララよかったしてください。squinted。それは真っ黒の内部となり、かび臭いにおいが空気中の電話を切った。彼女は、フレアのパックを持っていた望んだ。

まあ、彼女は思った。ララ直進の階段』を見た。永遠に行くように見えた。彼女の左に、彼女は階段の下に虚空にリードを見た。彼女の右には、いくつかの小さなドアを閉める立っていた。誰がその背後に潜んを知っていた？これは難しい決断だったが、ララ彼女は何かを模索する前に、階段を登る必要がありますことを決めた。

いったん彼女は、大規模なプラットフォームになった、彼女は3つのドアの番号とラベルを見た。彼らは3を介して1つのラベル付けされた。彼女は、最初の1つで開始すると決定し、自分の道を開く動作します。1ピストルの扉を目指すと、ララ彼女の左側で、アウトに達すると、ノブを調整。ドアがロックされている。ララしかし、しっかりしたシャットダウンされたがキックしようとした。彼女は、2番目のドアの上に移動しました。これは非常に簡単にオープンしました。彼女の中に退き、とドアを閉じた。小さな部屋彼女の前に、それは血のように赤いされた2つのソファと、彼女の右に燃える火事が敷かれました。奥の壁では、4つのチェーンには大きな円形のボードです。また、暖炉のそばで小さなクローゼットだった。

彼女の拳銃を下げること、彼女はゆっくりと部屋の中を歩いた。各ステップでは、かすかなキュッキュいう床の上にcreaked。ララソファ最初に調査することを決めた。彼女はソファに沿って彼女の手を走った。ときに彼女は彼女の手を引っ張って、その新鮮な赤い血で覆われていた。として、彼女のパンツの上に抹消ララ機嫌を損ねる。彼女は、奥の壁まで歩いて近くに円形の板を見て。これは小型のスパイクで覆われていた。振り返ると、ララのクローゼットにしたのである。消灯のドアの下から表示されている。また彼女は、拳銃を調達し、ドアを開けた。巨大な黒い未亡人蜘蛛の部屋に出て注いだ。数百万だった！ためらいがなければ、ララ彼女のロードグレネードランチャー手にした。彼女は、いくつかの簡単なバックアップをさらに逃げるために反転したとは一度だ

けの生き物で解雇した。銃から吹くララ壁に飛んで後方に、ちょうどインチでは、光線の不足を送った。

ララは、深呼吸を取り、ここでは、スパイダーされていた床を見た。暗赤色の血液各クリーチャーから oozed。彼女は、その部屋は、彼女を調査するために必要で何もされたので、彼女を残してドアを開けることを決めた。どのようなララ副社長は、クローゼットの下部に置く緑輝くキーは表示されませんでした。

ルームいったん外に、ララのソフトの音楽には、番目のドアから来ると聞いた。ララは再び拳銃を調達し、ドアを開けた。ララ中に割って入り、周りを見回した。これは、ベッドルームだった。巨大な壁からぶら下がってひびの入った鏡。ようこそほこりドレッサー、1つの死体。ララの隅にあるアンティークな鍍真ちゅう製のベッドを見て花瓶を上昇した。その色あせた黄色ベッドスプレッド古い血液が乾いて跳ねたされました。ベッドスプレッド急に移動しました。

両方の彼女のピストルの向上、ララ根気が何であれ、それ自体を見るには待っていた。そして、その生き物はララでスプリングは、その巨大な爪を彼女の顔をスラッシュする準備ができました。ララあまりにも速かった。彼女は、生き物では1つだけシュートを放ったが即座に死亡した。それは奇妙なさんの生き物。これには、茶色の体の黄色の斑点のつま先でいた。その1つ目は真っ赤だったし、その頭の中にいた。しかし、血の体内から現れた。

"それは奇妙なことだ！"ララ、彼女は壁に反射した声を叫んだ。ララは、部屋を出て階段に向かった。柔らかなうめき声を、ステップごとに彼女がいた彼女の、次のように思えた。階段の下では、ララ彼女のグレネードランチャーは、フロントドアにしようと家路を与えると考えていた。しかし、彼女が、この伝説の家については本当だった。見つけるには、望んでも好奇心はうめき声。ララは彼女のホルスターに彼女の銃を押し込んだ。彼女は、エレベーターの横にどこにつながると見に行くことを決めた...

エレベーターの中に入ると、ララはかみそりでは、壁に並んで鋭いスパイクを触れないように注意されませんでした。にプッシュするには1つだけの小さなボタンだった。その上にメッセージがあった。それを読む：場合を除き、これらのスパイクお肉をリップングし、自分の骨に、その方が良いがままに... .."いいえ！"ララ叫んだします。すべての突然の単語のボタンを変更...

次にする必要があります死ぬ

ララ心配し始めていた。その後、エレベーターに上昇し始めた。少なくとも毎時 100 キロつもりだった！ 以上になった、より高速になった。ボタンでは、単語を再び変更...

Hehehe ...あなたが死んでしまう...

ララは、この発生することはできないだろう！その後、エレベーター完全に停止した。ララのエレベーターの反対側には一度だけ、再び致命的なスパイクが行方不明スローされました。ドアは、巨大な黒い影牙と赤の目で登場、ララの道を遮断してオープンした。彼は、目に見えない手にマチェーテを開催しました。

"さて、"彼は話し、彼の声の怒りと激怒した。"あなたは死んでしまう。私はあなたの距離移動すると警告した。私はあなたにスパイダーや生き物を送ったが、あなたを残していなかったの、今、あなたの最後の息を呼吸をするつもりだ。"ララ彼女の銃を手に入れられる前に、彼はエレベーターに開催されたロープ...落下し始めた薄切りにした。ダウン、ダウン、ダウン。ララ速いと考えていた。非常に速い！以来、エレベーターのみ、ララエレベーター、途中までの底から自分のくさびすることができた2人を保持することができます。彼女は、ハードの壁がスパイクを避けるためにしようとして、彼女が反対に彼女の腕と脚が押されました。彼女は、彼女の目を閉じて悪夢が終わるのを待っていた。

突然、彼女は良いアイデアだった。慎重に壁から降りる、ララの床にうずくまって、彼女のグレネードランチャーを取り出した。彼女は、エレベーターの天井に彼女 ducked 頭の上にダウン崩壊した引き金を引いた。ララ彼女取り組んでフックを掲揚し、上方向に振った。それは彼女の最初の試行で何かの保持を捉えました。ララそれを確保するため tugged と小さな棚には、添付バンジーコード上昇した。彼女は下、見て、シャフトの下にエレベーターの急落を見守った。スパイクは、エレベーターの下部を介してリップングすることの恐ろしい音を大声で繰り返した。のトップへ戻る近くまで到達はララだった。彼女は安堵のため息をついた。

"それは接戦だった！"ララ彼女のホルスターを調整し、エレベーターシャフトから、可能な出口の周りを見回した、そして彼女の横にある小さなドアに気づいた。ハンドルがないだったが、ララそれを介して簡単に上手なキックを与える

ことによって得ることができます。その壁に残ったのは小さな穴を介して登山後、ララのいずれかの小さなドアは彼女が以前の彼女が家に入って見たの外に彼女が見つかりました。

"うーん..."ララ、"私は、他の2つのドアにつながるのか疑問だ?"彼女は二つ目のドアに直面する、となつて約ノブ、ときに強い手を後ろから彼女をつかんオフにします。

"どこに行くのだ?と意思ですか"シャドウ怒鳴った。

"ああ、"ララは、"どうせ、もう一度あなただという素晴らしい"と彼女はため息をついた。

"あなたはされて一度は、"影の警告"ではなく、この時間の幸運かもしれない。しないであなたはここを離れることはないことを自覚?を耳にいる人の家の真相究明したい人は自分のよううめき声。彼らはすべての壁の後ろにあります。私はそこだけでなく、それらを埋葬いくつかの呪文を投げかけている。彼らはそれぞれ、非常にゆっくりと死んでしまう。そしてときには、自分の顔の壁の外側に刻印されます。私はほとんどそこにあなたを参照するのを待つことができます。"彼は邪悪な笑い声を立てた。その後振り向きざまに、彼は空気中に消えてしまった。

ララため息をついて彼女の額から汗を拭くために彼女の手を挙げた。その後、どこからともなく、斧の空気を通して出航し、ララの左手の上で死んでヒット。ララの痛みを叫んで腕が上がった。彼女の手を激しく揺れ、彼女の視力障害を起こす彼女の目を骨抜きにし、。彼女はゆっくりと彼女の手で、驚いたのは、常にしていた彼女の手を参照してくださいに見下ろして見ました。いいえ傷がない血の斧。

"その奇妙なことだ"とララ副つぶやきました。彼女は自分の手で1回以上念のために、確実に十分な、何も変わって見えた。痛みもなくなっていた。

"この家は私に狂うことだ!"ララ自分自身に叫んだ。彼女が、ドアハンドルしようとしたがララので、ロックされた最初のドアを試みた。それは開いて、そのさびた釘と一緒に音を立てて研削 *screached*。彼女を、根を介してすべての壁から出てきていたピアにしようとしていたララ *squinted*。骨や肉腐って腐りかけの胸がむかむかする病弱なにおいが彼女の鼻を記入。ララ階段を進んだ。いったん彼女は、下部には、小さなたいまつに到着したの壁にマウントされて横たわっていた。彼女はそれを拾って周りを見回した。すべての壁と砕け歳だっ

た。ルーツを混乱させるには、壁や床の割れ目から育った。いくつかの骨格については散らばっていた。ララの小さなワインセラーすべてインチララを慎重に骸骨ステップオーバー撮影を歩き回りました。突然、彼女は足音や奇妙なwhisperingsを聞いた。彼女は誰が誤ってそれが部屋に飛んで送信される頭蓋骨を蹴りされた参照を回避し続ける。これは、壁にぶつかり真っ二つに割れた！

"おっと！"とララ副ささやきました。その後はどこ頭蓋骨壁にぶつかり、彼女の壁を移動の一部を見たようなしかし、彼女は確認されませんでした。ララの近くに壁にいくつかの措置を講じた。案の定、それに移動していた！ときに、壁の内側に2フィートは約移り、ララ彼女のトーチで渡り、中に見えた。小さな前方後円墳、その横の壁に小さな穴と表示されました。これは、古いスクロールを開催しました。ララ、優しくしないように注意されている脆弱な紙をリップングすることを取り出した。ララ声を出してそれを読む：

"イェジンは、この用紙運命であると認める。古代の呪いは、この家の中で、長年住んでいます。影の悪されます。彼はあなたがたが生き埋葬されます！気をつけろ！私は彼の捕虜となった。この邪悪な呪いを停止する唯一の方法は、緑の鍵を見つけるには、前方後円墳で、影の火傷を入れています。私の友人と、今後のあなたの危険性を注意してください頑張ってくださいね。"

ララを見上げました。恐怖彼女の目に忍び込むようになった。彼女の手が震えるし、彼女のスクロールをドロップする原因を始めた。彼女は曲がってダウンをピックアップし、彼女がそれには、骨の手を彼女のクラブでした。ララを返したと叫んでいた彼女は、彼女の拳銃を取って、彼女の前に立っている小さなスケルトンを目指した。

"待って！"スケルトン叫んだ。ください"私を傷つけるしないでください！"とララ副少し彼女の銃を下げた。彼は一体誰でしたか？なぜスケルトン話していた？たくさんの質問ララの心をよぎった。

"誰ですか？"彼女は、密接に彼の勉強尋ねた。

"私の名前カンポベロです。私は14歳です。学校では、常にこの家のうわさされた。誰もが呪われている。彼らはまた、シャドウここに住んでいる人の死に人々を拷問。私は自分のを見つけると思った。したがって、一晚、私は離れて私の家から這い。私はここに来て迷ってしまった。このように私はものを見ることができませんでした暗くなっていた。私は怖がっていた。それから、私はうめき声を聞いた。それだ音量をさらに大きくなった。これは、大きな

黒い影来て、ここに私を投げた。私は独りでした。まで、私は苦しみから死亡し、その日の夜、彼は私に槍を投げた。私は自分の血が壁にスプレー覚えている。私の聞いたことがないが泣いてしまう。これは恐ろしいことでした！そして、彼が、邪悪な...純粋な邪悪な笑顔を私 spearing された彼の顔に出くわした。彼は自分の首をオフに私の頭のリップングしたい、と私に言った家の外に誰も参照してくださいにハングアップするだろう。私は怖がっていた。"彼は静かにすすり泣きを始めたが、涙、彼の目のソケットから来ました。

"、"ララの説明聞く、"まだ私はうまくいかないんだがいくつかあります。ただし、ユーザーが話すことが死んでいる？だから、理由を出発しますか？"少年を話す前に、躊躇しない歩くことができる。

"まあ、本当にしかし、直前に私は死んだ時、影の私には私の魂だけは私の体が死ぬことはない魔法をかける。ため、私は離れることができない私に残されていません。しないまでシャドウは死んでいる、と私は長い間、起きていないが感じている。"彼は離れて、彼の頭になってとのララ返事を待っていた。

"あなたは、キーとスクロール？"ララ質問では、トラップになりました。

"はい。"カンポベロ答えた。

"うーん、どうやって影を破壊する緑の鍵を見つける必要がありますか？"と彼女は尋ねた。

"多くの場合は、シャドウがここには、彼自身に彼のようなものか、誰も鍵を見つけるとしている話しています。彼は当初、トラップした。私は、彼がなぜこのようなことをするかはわからないが、彼でした。彼は、壁の背後にある前方後円墳を置き、誰もそれを見つけるとそれを封印した。しかし、私は事故のとき私は自分の道を掘ることとしていたそれが見つかった。私がどのように彼を停止する何かを書くため、私は、それらを砕いた骨、別の捕虜を取り、壁の部分とが混在した。私は文章を書くのに私の血を使用します。しかし、あまりにも多くの力がある。私は、呪いを破られることはありません知っている。たびに、彼は誰かを殺す、彼はより多くの電力を得る。"

"まあ、私は、キー、カンポベロも、それが私を殺す、"ララの説明を見つけるつもりだ。少年は頭を振った。

"あなたは一人で行くことはできません。私はあなたと行きたい。また一緒に仕事するのがよいだろう。加えて、何年も、鍵を見つけるに連れて行くことができます。たくさんの秘密の通路です。そして、人... ..それは壁の間に埋葬されることを知っている。"

ララはため息をつきました。もし今までここから抜け出すには、したいと呪いを停止する"まあ、我々より開始する。"

"それでは、行ってみよう！"カンポベロ答えた。

ララ突然の寒さを感じたの古い階段を上って戻っウォーキング。あまりにも彼女が彼女のいい暖かいボマージャケットを持っていなかった悪い！それはかなりの骨格彼女の背後にある階段を上がるのが変だった。彼女は彼を信頼してもらえますか？ 結局のところ、彼は影に彼女のリードすることができる！ まあ、彼女は思った。彼女はいつもグレネードランチャーていた！

階段の上に到達した後、カンポベロだけ登場ドアに向かって指摘した。

"たぶん私たちは見てほしい"と提案した。

"分かった。しかし、最初にすべての私はあなたに銃を持ち歩くにしたいの。"ララは彼にピストルを渡した、と彼の骨の指を握った。

彼らとしてはドア近づいて大声で刃物の clanking を聞くことができます。少年がドアを開けて、彼らの部屋を参照して驚いていた明るく照らされていた。これは、ダイニングルームように見えた。巨大なシャンデリアがテーブルの上を切った。ララは、テーブルには、上を歩き、滑らかな表面上に彼女の指に走った。何も悪いようだが、この部屋にあいまいなので、ララカンポベロ顔に転じた。

"まあ、"ララと言うようになった。"私はここに何も表示されません。たぶん私どもの方に行くか？"

"いいえ！"カンポベロ叫んだ。"そこはどうで？"彼は自分の骨を指で箱のところコーナーでスタックを指摘した。"の方に移動しよう"と提案した。

"すべての権利を、"ララ、と答えた"でも、念のためにガード立っている。"ララ迅速ボックスに向かって歩いたと、道に出て行った。小さな通路が明らかになった。これは点灯していなかったいたので、ララの内部参照してくださいに目を細めていた。

"さあ。"ララカンポベロ人床の上に座っていたと述べた。これらは両方とも長く狭い通路を進む。前にララを開設するかすかな光を見ることができます。

通路の終わりに、彼らは影の寝室のように見えたにたどり着きました。ララはさておきのでカンポベロ部屋に入っても得ることが移動しました。昔、彼が入力された彼は恐怖だった。それは彼の目のように見えた彼のソケットを開くには、ララ思考ができていた... ..だが、その後、彼の目が、実際に覚えて！彼女は部屋の中をゆっくりと、何事も非常に慎重に詳細を探して移動しました。飛び出しと小さな木製のテーブルに彼女のそばに立った。

赤厚、新鮮な血液がナイフの端に大敗した。奥の壁に、巨大スクリーンに彼らの前に立っていた。として、男はナイフを持った少女の胃の削減ララ恐怖で見た。として、男性が再び現れた削減少女苦しみの中で叫んだ。カンポベロのスクリーンショット。どこでも、飛んでスパークスガラスのララの顔を噴霧粉々に。彼女は安全性をもたらすための鳩カンポベロ彼女と一緒に。彼らは床の上に大きなヒープに上陸した。ララは立ち上がった。ガラスの彼女の髪から床に落ちたと体。ここでは、画面一度、今、古い砕け壁には行われていた。ララカンポベロ顔に転じた。

"Why'd するのか?"と彼女は尋ねたありません。

"私は非常に残念です。私は貧しい少女を殺害されて参照してくださいに立つことができませんでした！"彼はすぐに見えた。

"まあ、"ララ始め、件名を変更するに受けなければならない。"とはこの部屋をもう少し見てみよう。"

"すべての権利"と彼は答えた。ララの部屋の周りを続けた。彼女は、起動歯車のかすかな動きを聞いたと思った。これは、スパイクトラップ、ララと考えることができます。

"カンポベロ。この部屋にはスパイクのトラップとは、すでにアクティブになってよ！"

"ああ、いや... ..私たちがすることになっている?"彼の声は心配のフル尋ねた。

"まず、どこにあるかを見つける必要がある"ララは叫んだ。彼女は、彼女の頭部を上向きに傾いて、巨大な致命的なスパイクを向けて下降を見た。ララしか

し、唯一の目に見える1つのバックどこから現れて、トンネルを通過された迅速な終了のために部屋をスキャンしました。その後、警告なしに、ララ、カンポベロの骨の腕をつかんで、通路に彼を押し込んだ。

"すごい迫力!"と彼は、かなりショックを叫んだ。ララは、トンネルに向けて、sprinted と逆にロールバックした直前には、光線の彼女の体がパンク。ララカンポベロ致命的なスパイクの子孫として、床からのリップングを見た。1つ上の小さなテーブルが死んでヒット。飛び出して床に投げたが、インチの距離ララから。できるだけ早く、彼女にナイフを向けて急落し、それを選んだ。カンポベロ彼女の足をつかんで、トンネルの中で彼女の後ろで束ねて。ララは彼に感謝し、彼女の銃をベルトにナイフを押し込んだ。

"というのか"というカンポベロ質問は何です。

"我々は思考する必要があります!"ララと答えた。彼女が部屋に入って再び覗き込んだ。スパイクが現在停止していた。そこに十分な部屋をクロールし、各スパイクの間にララと考えられた。彼女は、しかし、躊躇しては、彼女が致命的なスパイクの周りをクロールしようとすることを決めた。

"どこに行くのですか?"カンポベロ尋ねた。

がある場合は、この部屋の別の方法には、"私を見に行くよ。が存在する必要があります! どのように他のシャドウを介して取得するか?"ララ疑問。

"と、彼の壁を通過できるドアは必要ありませんシャドウはありません。しかし、私はあなたを知ることはありませんね!"と彼は答えた。ララは非常に慎重にスパイクを回避彼女のようにした。カンポベロすぐ後ろに続く。その後、誤ってカンポベロ、彼の膝の上にバランスを崩し、ララへの転落、ノック彼女の壁を前方に。

彼女が壁にぶつかり、"すごい迫力!"彼女は叫んだ。ここでララ壁にぶつかり、その内側に移動し始めた。

"少年、これは確かに多く起こる!"彼女は彼女の顔にニヤリとしながら叫んだ。彼女は彼女の頭に転向し、カンポベロに微笑んだ。

"やあ、ありがとう"と彼女は言った。

"問題ありません"と彼はおずおずと答えた。

"私は、この行くを見に行くんだ"ララと説明した。

"私はあなたにぴったりの後ろよ！"と彼は答えた。ララカンポベロ小さなトンネルを介して上昇した。これはかなり、と暗くなっていたソフト世界中聞いたうめき声。しばらくすると、ララはもう彼女の背後にカンポベロ聞くことができなかったので、彼女は彼に呼ばれる。

"カンポベロ？はどこですか？"それは彼の返事を数秒しかかからなかった。

"私はここよ！私はそこに数秒間使い古した得た。私はすべての権利。続けて！"ララカンポベロさらに先のクロールされたとして、緑のライト育った明るく、明るくなります。長いトンネルの終わりに、自分自身がロックされていたドアの階下からの出発が見つかりました。

"この家は素晴らしいです！あなたがどこで終わるだろうか分からない！"ララは叫んだ。彼らは部屋の周りを見回した。今一度、しっかりとしたレンガ造りの壁に立ってここでは、フロントドアがその場所だった。とても好調で、厚さが無いグレネードランチャーそれを介して爆発性があります。

"まあ、"カンポベロに対し、"今どこに行くのですか？出口はもはや利用可能であり、そこにどこにも他に行くよ！"

"それは何を考えてよ！"ララと答えた。カンポベロ彼女の目の中の小さなキラキラ輝くことに気づいた。

"何？"と彼は言ったが...彼の目のソケット大きく成長。ララの右にある彼女は、新しい緑のドアだったと指摘した。笑顔をすばやく彼女の顔に広がり、彼女は非常に興奮だった。

"をやってみましょう！"と彼は叫んだ。彼らは、ドアに向かって破線、カンポベロピストルを出したと直進目指す。ララ、彼女の散弾銃を降りると同じでした。そして、ドアに活発な側のロールで、彼らの中に入ることができた。ときは、焼香空気を通して旅の柔らかなにおいがした。小さな黒い蝋燭のすべての壁に並ぶ。部屋の中央には光のかすかなビームが上にダウン輝く高いプラットフォームだった。ララは、プラットフォームに向けてゆっくりと移動しました。彼女は小さな子供が縄でぶら下げことに気づいた。血液の細い線彼の首から下下った。彼の目はまだ、彼の顔には、恐ろしい見てひどかったが開いていた。彼はされて数分のため、残念ながらそれはあまりにも彼を救うには遅された死者はおそらくいた。強いハンドララの肩に手にした。

"だから、あなたが私の式を参照してくださいか？"影のあることを決めた。"あなたはちょうど間に合うようにあなたの友人カンポベロ死亡しているに会いに来た。"すると、影の静かな、自分自身に冷笑したという。

"いいえ！"ララ、彼は叫んだ。"カンポベロ私と一緒に全体の時間をされています！ようこそあなたは彼を殺すために準備された方法はありません！少なくとも、ここでいずれのでは。"ララ戻る黙って自分のことを笑わせてカンポベロ参照してくださいに見えた。

"何がそんなにおかしい？"ララのを要求した。

"Hehe、ハハ！あなたはまだ、あなたがそれを得るか？"と彼は尋ねた。

"いいえ、ありません。何'ここで起きて掲載教えてください。"と彼女は混乱の中で尋ねた。

"まあ、オフを開始するために、私カンポベロではない。私は、影のヘルパーだ。カンポベロの距離や、撮影されたときは、トンネル内にされた拉致されたと言う必要があります。とても簡単だった！"彼は再び笑い始めた。

"何だって！"ララうなった。"じゃあどこだっけ？"

"ああララを見てみましょうここでは、太陽輝いて見える。"少年と述べた。ララは、プラットフォームの顔に転じた。、彼の体死んでも、縄でハングカンポベロされた彼の頭を切った。ララはほとんど小さな彼女の眼形成涙を感じることができた。どのように彼女はとにかく知っているだろうか？

"あなた邪悪な化け物！"彼女は影で叫んだ。ララ彼女のピストルをつかむに行ったけど、そこではなかった。どちらも彼女のグレネードランチャー、または、彼女の手には、以前された散弾銃だった。どこに行くのですか？

"何かお探しですか"とシャドウ尋ねた。彼はすべての彼女の武器を開催しました。

"やあ！"ララ叫んだ。彼女は全く満足できませんでした。彼女のお守りを今すぐ消えてしまった。彼女は無力を感じた。他にどのよう彼女を守るだろうか？その後、少年はララで自ら推力。もちろん、ララも迅速だった。彼女は、その逆のロールの良い横跳びでした。その後、彼女は彼女の銃をベルトにされた飛び出しナイフを思い出した。彼女は、それを取り出して、彼の腸にはjabbed

し、ハード、ツイストでプルアップ。彼女は彼女の顔に邪悪な笑顔で冷笑した。

"Noooo!"の影が叫んだ。"彼は5000年の私のヘルパーされました！彼は今死ぬことはできません！"ララは、シャドウの上に見えた。彼は、その後、突然、彼は消えたにらんだ。"ああ、彼は戻ってきます！"ララゆっくりカンポベロ方面に歩いて、彼の目のソケットの輝きを開始した。彼らはララのシャツに緑色、次のように空のように青色になって。しかし、ララは注意して見ていた。

"ララ"と彼は息を呑んだ。

"あらまあ！私があなただったら...死だ！"

"私は知っている。まあ、一部は私。しかし、数分後に私は完全に死んでしまう。"彼はため息をついた。"私は緑のキーは、私はあなたから撮影したのを見た。これは、ソファとクローゼットの中に、あなたの前には表示されませんでした。"彼は、その不安定な呼吸になった一時停止します。"ここには、"彼のように非常に古いされたことだった指を開催しました。"これはあなたを守ります。影の右眼に2回のみ。ジャブが、その後、次の時間を彼の左眼が、覚えて、それは2回だけ動作します。"それから、彼は窒息し始めた。濃い黒煙が充満した部屋。彼は死んでいた。ララ彼女の頭を下げた。

"カンポベロいただきありがとうございます。そして、私はあなたを決して忘れないよ心配しないでください。"彼女は左手で開催された指を取って、彼女は彼に与えていた彼女のピストルに気づき、彼の右手です。

"いいえ、私はそれをしないだろう"と彼女は声を出している。その後、銃が地面に落ち、カンポベロ死んでいた。

彼女は、銃を拾い、それは彼女のホルスターにぴったりと配置されます。ララは部屋の外にバックアップ彼女の友人の少なくとも1つの見納めをしたし、正面入り口に戻されます。彼女は、階段でチラッと階段を上ってsprinted。ときに、彼女は3つのドアを見たので、彼女は3番目のドアを試みましたが、彼女は、ソファにあったのを思い出すことができませんでした。ララの扉を開いた彼女は、ベッドを見て、前にすべての。すぐに、彼女は部屋の外にバックアップし、最初の扉を開いた。すべての黒の未亡人はまだ床で死んでいた。ララは、クローゼットには、上を歩き、床の上の緑の鍵を見た。すぐに彼女は、それを拾って部屋を出て走った。ララ階段を下りるsprintedと地下室へのドアに向かっ

た。ララの扉を開いて遠隔地と、ゆがんだ階段を下りていた。彼女は非常に彼女を見て下になった場所前方後円墳一度もあったが、それが完全に新鮮なセメントでいっぱいだった見た。

"ああ、いや！"とララ副社長。以来、彼女はグレネードランチャーでいないが、彼女はピストルを使用する必要があります。彼女は、銃を集めた下位フリップでしたし、少なくとも10回を解雇した。最後に、ララ前方後円墳を参照することができた。できるだけ早く、彼女が、ララして、飛び出しどこから出て来たキーを取り出した。これはララの頭に向けて薄切りにした。する前に、ブレード首を切断されたララの時間だけで ducked。ナイフの背面壁になった。その後、さらに2つのナイフをどこにも出てきた。ララ再びけがを避けるために ducked。ナイフの壁以上にシュートナイフヒットするたびに。もうすぐそこ10ナイフをまっすぐ彼女の頭に向かっていた！がララには、この時間をかわすことがない方法だった。彼女は汗をかくようになった。その後、同様に、最初の刃についての彼女を取得され、強い声を叫んだの"STOP！"

即座に、ナイフ中旬に凍結した空気。ララはため息をつきました。彼女は叫んで確認して部屋の周りに、見て、シャドウまでの隅に浮かんでいた。

"とララ副だから"と彼は述べた。"私たちが殺害しようとする？は前方後円墳で、そのキーを置くことにより、あなたは私を破壊されません！"彼は彼女に向けて浮かべ、彼のマチェーテ彼女を目指した。ララは、カンポベロ彼女を与えたの指をつかんで、彼には jabbed、彼の右眼を目指して。彼女は彼だ！彼は痛みで、悲鳴を上げ、厚さ、黒煙が咳をし始めた。それは彼を停止してほんの数秒も前に、彼は、立ち上がって、ララでにらんだ。

"そう？"ララが叫んだ。"我々だけが表示されますについては"彼女は壁に自分遠隔地、およびキースロットにキーを挟んでしまった。何も起こらなかった。

"いーえ！"ララが叫んだ。彼女は床に落ちた。そこに彼女はすぐに行くことが何もなかった。その後、ララの鼻の穴酸っぱい臭を、燃焼、肉の満ちていた。彼女は、見上げると影の燃焼を見た。彼の目に膨らんだ静脈からぶら下げている。彼の叫びは非常に大きな音だった。その後、一瞬のうちに、彼は消えていました。

彼女の呪いで下した？彼女が行く可能性がララのスピードで階段を駆け上った。前面扉！これはバックアップされました！ララのドアには、sprintedして停止した。彼女は歌を聞いた。それは彼女のすべてを回避された。ララ息をし

た。これはライラックのようなおいとバラ。彼女の周りを見回した彼女は、笑い、彼女の目は、新しい光を斜めに。人々のすべての壁から出てきている。一方で、簡単にその方法をプッシュ一部で苦しんだ。彼らは一斉に、すべての歌っていた。彼らはララに向けて浮かべた。彼らは自分たちの顔に笑顔だった。彼らは、笑いと幸せに叫んだ。ララ笑顔にも継続的な彼女に近い彼らに辞任した。その後、一人のすべての他人の前で浮遊して話を聞いた。

"ララ。あなたは影の呪いを倒して！ 私たちは皆そうすることになった！われわれは、すべてのシャドウの受刑者に感謝します。数百年の壁の奥深くに埋葬された。今は無料です！今までどうもありがとう。現在、我々の幸福に永遠に住むことができる！"

ララの言うことを知らなかった。彼女だけに継続的な驚きで凝視する！小さな女の子を転送次の浮かべた。彼女の手には彼女は見事なリングを開催しました。これは、青、紫、金輝いと銀！これは、ダイヤモンドやルビーのそれに添付した。リング素晴らしかった！子供そっと話を聞いた。"以来、無料、ララたちを、私たちはこのプレゼントが欲しい。これは、シャドウの指輪だった。我々はそれが好きな願っています。"彼女はララのために取るにそれを開催した。

"ありがとう！"ララは叫んだ。"私はあなたのすべて揃えています！"その後、一度にうれしいが、すべてのカンポベロ、彼の心を歌っていた、ドアのささやきに向けて浮遊して叫んでララへの感謝など、人々が再び。彼女は喜んでいた！すべての彼女の銃に戻っていたし、彼女のコレクション：指と影のリングに追加する2つの宝物だった。ララ再び、そのドアに向かって歩いて、それを開きました微笑んだ。いったん外に、ララの家で1つの見納めをした。その後、彼女のノートンストリートファイターオートバイの上で跳ねには、上で走って離れて高速化...

次の日...

この日早朝だった。ララの時計 5:18 お読みください。今日の彼女は、メキシコにはアステカのピラミッドだけでは、地上から上昇していたつもりだった...

バイオハザードハウス

著作権© 2000 ケイティフレミング

トゥームレイダーのララクロフト

著作権©コアの設計とアイドスインタラクティブ社